

「かもう女性の会」

始良郡蒲生町上久徳 1948-4

発表者：久保 伸子

かもう女性の会の久保と申します。私たちが日頃活動を通して地域に関わっていることを発表し、皆様方のご指導をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

私たちの住む蒲生町は鹿児島県のほぼ真ん中あたり、ちょうど県本土のへその位置にあたります。

東に始良町、西北に薩摩川内市、南に鹿児島市と隣接しています。樹齢1,500年の大楠をシンボルツリーとし、そこから広がる町割りの中には武家屋敷も残っており、市街地を抱えるように前の郷川、後ろ郷川の2本の川がゆったりと流れています。

恵まれた自然と人との調和、生涯安心して暮らせ、誰でも生き生きと生活できる町づくりを目指しています。



蒲生町の人口は7,243人、65歳以上の高齢化率は35.14%とご多分に漏れず高齢化の町です。私たちの会は任意加入で、会員数現在204名、蒲生が大好きな女性たちです。が、65歳以上が74%と、正に高齢化。しかし、81歳の会長、副会長を先頭に、皆元気いっぱい現役として活動しています。

具体的な活動内容は、1. 河川の浄化活動 2. 見守り活動 3. 日本一大楠どんと町でのゴミ減らし活動 4. レジ袋減らし隊活動 5. 他団体との連携を図るなどです。河川浄化活動としまして「きれいな自然や河川を後世に」を合言葉に、最初に取り組んだのが環境問題です。

家庭排水が汚染源の大きなウエイトを占めていることを自覚し、各家庭でEM米のとき汁発酵液を作り、掃除や洗濯に使います。又、台所からも流して排水口から流れていく水を浄化するよう努めています。食用廃油も大きな汚染源になります。これは石鹼を作り、化学洗剤を極力控えることができるようになり一石二鳥の効果を上げています。生ゴミは、EMボカシを加えて堆肥にして畑の肥料に使います。こうしてできた野菜は、どれもみずみずしく大変美味しく、正に安心安全な有機野菜です。また、河川に対しましては環境衛生協会や地区公民館





にも呼びかけ、EM土団子を作り、年2回、約1,500個を前の郷川、後ろ郷川の2つの川の上流に投入します。この時は、町長・議長さんも参加され、大変心強く思います。効果の現れでしょうか、年々蛍の乱舞も美しさを増してきたように思われます。

学校への出前講座として、「EM活性液や米のとぎ汁発酵液作り」を指導し、それをプールに投入します。数ヶ月後、子ども達と一緒にプール掃除をしますが、EMを投入したプールはヌルヌルもなく、洗剤など使わなくても簡単に汚れが落ちきれいになります。おまけに、ヤゴやみずすまし、ゲンゴロウなどの水生昆虫も沢山生息しており、子ども達も大喜びです。この講座はこれからも環境教育の一環として、また、子ども達との交流・ふれあいの場として続けていきたいと思っています。

見守り活動として「蒲生ん子見守り隊」と「高齢者見守り隊」を組織しています。「蒲生ん子見守り隊」では毎日の登下校の見守りはもとより、年5回は通りを決め、早朝の挨拶・声かけを実施しています。約70名がピンクのジャンパーに緑のたすきがけで通りに並べば、一面ピンクの花が咲いたような雰囲気、ドライバーの方々も何となく和やかな表情で、安全運転にも役立っているように思われます。



「高齢者見守り隊」は、女性の会の会員が、隣接する2～3人を担当し、安否の確認・話し相手・ゴミ出しの手伝いなどしています。閉じこもって孤立されないよう心をかけています。現在、約40組



150人の組織ができていますが、私たち会員も高齢化が進み、お互い見守り、見守られといったところかも知れません。

各集落ごとに、民生委員、公民館とともに「生き生きサロン」を立ち上げています。月一度、体をほぐしたり、ゲームをしたり、歌ったり、お茶を飲みながらおしゃべりしたり、そして大いに笑います。この時、お年寄りの知恵袋からポンポン飛び出す宝物を私たちはいただくのです。お互い、とても楽しみなひとときです。回を追うごとに参加者も増えています。

日本一大楠どんと秋祭りのひとこまです。祭の後はゴミの山。何とかしなければと、実行委員、出店者、女性の会が協議し、出店者の容器の統一と参加者に容器洗浄の協力をお願いしました。当

◆活動事例（かもう女性の会）◆

初は、「どうして自分で洗うのか？」と不満の声も聞かれましたが、継続は力なり。今ではゴミは1/5に減り、後は掃除をしなくても良いほどです。

今話題の「レジ袋減らし隊」運動では、地区公民館の協力で全家庭にカードを配布、協力店、商工会の賛同を得て推進してきました。平成20年12月末現在28,435



枚、1戸あたり8.6枚の削減。成果はまだまだですが、住民の意識も随分変化してきて、マイバッグ持参の人が増えました。

その他、使用済み割り箸の回収もしています。集めた物は福祉協議会が中越パルプに持って行き、紙の原料になります。町内外の食堂からも届けられ、すでにトータル5トンにもなっています。森林資源を大切に、私たちは出かける時はいつもマイ箸持参です。啓発運動にのぼりばたやタスキをということになりましたが、経費がかかります。熱意を持って当たれば通じるもので、のぼりばたは衛自連の提供、タスキは自分達で賄いました。

活動の核として、広報活動も大切なことと位置づけています。すべて手書きの広報誌「思うままに」を発行しています。昭和40年5月に第1号を発行してから現在370号になりました。当初、



毎月の発行でしたが今は年4・5回の発行になっています。

また、行政発行の「広報かもう」には「エコ」のコーナーをもらい、環境問題の大切さを呼びかけています。

また、その時代の問題点を織り込んだ創作劇を作り発表しています。平成10年に始めてかれこれ10年になります。平成12年には環境音頭を作り、環境問題の啓発に役立てて

きました。

私たちの小さな活動も、多くの方々に支えられ、それなりの成果を上げることができましたが、まだまだこれからです。会員のお年寄りの貴重な生活体験をもとに、古里の良さを後世に継承することを大切にしたいと思います。「できる人が、できる時に、できることを」を合言葉に、明るく生き生きと活動していきたいと思っております。これからも、どうぞよろしく願いいたします。

ご静聴ありがとうございました。